August 29, 2023
Consortium News

貧困資本主義
経済，所得格差，そして英国労働党

Destitution Capitalism
ECONOMY, INCOME INEQUALITY, LABOR, UNITED KINGDON

https://consortiumnews.com/2023/08/29/craig-murray-destitution-capitalism/

By Craig Murray

リード
英国の一般市民は一つの信念を植えつけられている。「国家はより大きな利益を求めて経済活動を
統制すべきだ」と。

ノリッチの街路の歩道に座り、行き交う買い物客を見ている無気力な男性

本文

英国では経済政策をめぐる政治的な議論がまったく行われていない。
読者数の少ない少数の左派系ウェブサイトや雑誌だけが声を上げている。私は絶望している。

労働党は、前党首ジェレミー・コービンの穏健な社会民主主義的綱領を完全に放棄した。
いまや労働党は、公共事業の公的所有、雇用の安定を高める労働者の権利の改善、経済を刺激するための公共支出などをみずから放棄している。そして富を再分配するための税制も放棄している。

労働党影の内閣のレイチェル・リーブス首相は、サッチャーの教義を明確に推進している。それは税制、公共支出、あらゆる形態の規制が経済成長に悪影響を及ぼすという主張だ。
彼女は現代通貨理論を全面的に否定するだけではなく、ケインズ経済学の基本的な考え方を受け入れないことも高らかに宣言している。

リーブズとキア・スターマー党首はサッチャー派に見えるが、それは正しくない。
彼らの信念はサッチャーとは違う。それは「富は巨大な独占帝国を築き上げる経済的巨人によって生み出されものであり、政府によって妨げられてはならないというものだ。つまりサッチャーよりはるかに古いものを引きずっている。

自由奔放にやり放題の資本主義は、イギリス全土に社会的影響をもたらすだろう。
若い世代では非常に高い割合の人たちが、雇用の安定を知らず、財産を持つことも、それに憧れることすらも叶わぬまま歳を重ねている。
彼らは家賃と暖房費だけで収入の膨大な部分をを支払いにあてている。学生時代の奨学金を背負い、自己発展の望みはほとんど持てない。

このような状態が社会や経済にとって健全だと考える人がいるのだろうか、私には理解できない。
また、この経済を支配している巨大経済企業が、なぜ独占企業であると認識されていないのかも理解できない。アマゾン、マイクロソフト、グーグル、アップルは、スタンダード・オイルとおなじように独占企業ではないのだろうか？

企業は競争に勝って、市場独占という不健全な地位を確保することは、そこまでの過程で違法なことや非倫理的なことを行わなくても可能だ。
たとえば、企業主個人たるビル・ゲイツやスティーブ・ジョブズが、善人であろうと悪人であろうと関係のないことなのだ。

ジェレミー・コービンは英国の人々に、国家が利益最優先の経済活動を重視するという信念を変えようと呼びかけた。同時に、国家は一般市民の生活を調査し、積極的な対応を行うと宣言した。
それがコービンのささやかな社会民主主義綱領の柱である。彼の掲げた最悪の不平等社会の最悪の不公正を改善するいくつかの措置は選挙民に大好評を博した。
だからこそ、資本家たちはコービンを「反ユダヤ主義者」と糾弾する大規模な詐欺行為で、首相の座から排除しなければならなかったのだ。

しかし、コービンが退場し、「野党」が無力化した今、より進歩的な政策が大多数の人々の耳に届くことはない。

唯一の例外は、鉄道労働組合のリーダーであるミック・リンチの奇妙なメディアインタビューである。ミック・リンチは、労働者寄りの意見を明確かつ明瞭に述べたことで、一時的に大人気となった。普段は見ることも聞くこともできないことだ。

いまや彼がテレビの画面に映ることはめったにない。つまり、鉄道労働組合以外のほとんどの組合は、高給取りの指導者たちの出世欲のために操られる権力構造になっている、という残念な事実に行き着く。
だからスターマーが首相に選出されたからといって、一般労働者が救われる可能性はまったくない。

なぜ労働組合は、庶民を完全に見捨てた労働党に莫大な資金をまだ支払っているのだろうか？

学界では、新自由主義経済の教義に対する深刻な反対論が残っているが、このようなまともな思想は大衆の意識に浸透していない。

かつては、左翼の経済思想にもう少し広い発言舞台を与えるメディアがあった。イギリスでは『ガーディアン』紙や『ニュー・ステーツマン』紙がその例だろう。
しかしこれらは、いまや完全にネオリベラリズムに取り込まれ、コービニズムの崩壊を助けた。

.....

作家、放送作家、人権活動家。2002 年 8 月から 2004 年 10 月まで駐ウズベキスタン英国大使、2007 年から 2010 年までダンディー大学学長を務めた。彼の取材はすべて読者の支援に依存している。このブログを続けるための購読はありがたくお受けいたします。